

2011年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	古賀 正義		
NAME	Masayoshi Koga		

1. 研究課題

(和文) 青年の「自立支援」に関する社会学的研究

(英文) Sociological Analysis of Supporting System for "At Risk Youth"

2. 研究期間

2010年4月1日～2012年3月31日

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

(和文) いつの時代にも青年が大人として自立することは困難な課題だった。だが今日の流動化し液状化した社会では、社会的職業的に一人前になったと自覚することは一層難しい。「自立支援」という言葉が生まれた背景には、大人になりにくい社会で大人にさせようという現在のトランジション問題のアイロニーと排除型社会における支援の切迫感が読み取れる。

本研究では、生きづらさに直面している青年に焦点を当て、自立に必要な能力や社会環境がいかに認識されているのか、またアイデンティティ構築に有用な社会的資源とは何かを、当事者本人と支援・指導者の双方の視点から調査した。具体的には、①フリーター等となった教育困難校卒業生への聞き取り調査、②ひきこもりを抱える家族および支援NPO指導者への聞き取り調査、③少年院および児童自立支援施設の在院者・指導者に対する観察等調査を実施した。

調査結果から読み取れることは、①就業意欲を欠いた青年でなくとも排除の構造によって非正規雇用に追い込まれやすく、安定を求めつつ「小さな幸せ」を探すナイーブな努力を日々続けている実態があること。②生きづらさを解消する方途は、単なる就労機会にも対人関係能力の開発にもなく、ステレオタイプな出口観が却って選択する支援の混乱を生み出しやすいこと。③施設では説明責任のゆえに、在院者に「自立」を語る実践の構築が優先される傾向にあり、SSTなどの危機場面でのスキルトレーニングに矯正合理性を求める動きが強まっていること。

以上から、「自立支援」の強まりのなかで、現実のささやかな歩みと即効性のある自立訓練への指向との分極化が生じ、その振幅に、青年が自己責任で対応しようと過度な不適応を起こす実態があるといえる。他者との関係性の中の自立イメージを、彼らに再構成する必要がある。

(英文) The purpose of this paper is to analysis of effective supporting for "at risk students" by the qualitative research. They acquire of "ideal type of becoming adult" through activities of support. But they are confused of division between "real experience of citizenship" and "social skill training". We need to try practice of making relationship of them.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】 （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）	
1) 古賀正義 非行少年の「セカンドチャンス」を構築する教育実践	（査読無）
—カリフォルニア・ティーンコートに関する参与観察研究 中央大学『教育学論集』第53集 25-54頁 2011年	
2) 古賀正義 「困難を抱える若者」のキャリア教育（査読無）	中央大学『教職課程年報』第16号 23-33頁 2011年
3) 古賀正義 ひきこもりとその家族の社会学的研究	（査読無）
—東京都『ひきこもる若者たちと家族の悩み』調査の結果から 中央大学『教育学論集』第54集 印刷中 2012年	
【学会発表】 （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）	
1) 古賀正義 進路多様校卒業生のライフコース—5年間に及ぶ聞き取り調査の結果から	
日本教育社会学会第63回大会（お茶の水女子大学）2011年9月 発表要旨集録 144-145頁	
2) 「ひきこもり」青年を抱える家族の問題理解に関する実証的研究—支援団体参加家族への聞き取り調査の結果	
日本社会学会第84回大会（関西大学）2011年9月 報告要旨集録 10頁	
【図 書】 （著者名、出版社名、書名、刊行年）	
1) 古賀正義 高卒フリーターにとっての「職業的能力」とライフコースの構築	
本田由紀編『労働再審第1巻 転換期の労働と<能力>』大月書店 147-182頁、2010年	
2) 古賀正義 「将来の私」を物語る—セラピー・カルチャーを求める若者たち	
北澤毅編『<教育>を社会学する』学文社 127-154頁、2011年	
3) 古賀正義 成績評価の役割と機能—教育的視点から 共編『現代日本の少年院教育』名古屋大学出版会 印刷中	
【その他】 （知的財産権、ニュースリリース等）	
1) 「格差生き抜け 高校模索」（教育 あしたへ「学力」を超えて 第4回）	
朝日新聞朝刊全国版2011年6月4日付記事	
2) 「困難を有する子ども」の支援を問いかける 中央大学広報室『知の回廊』2011年10月放映	
3) 液状化する進路の回避へ—求められる市民性教育 学習研究社『進学情報』2012年3月 6-10頁	